

巻頭言

HARD WORK



セントラル硝子株式会社 代表取締役 社長執行役員

皿澤 修一

Shuichi Sarasawa

ニューガラスフォーラムの機関誌“NEW GLASS”への投稿依頼が参りました。

これは、板硝子協会の会長職が輪番制となっており今年度セントラル硝子に回ってきた事と、ガラス産業連合会（GIC）の会長を今年度は板硝子協会会長が務めることになったことによります。

偶然とはいえ二重の幸運（？）に恵まれたわけです。

本業が大変な時期に会長職という重責を引き受けて良いのかという不安もありましたが、覚悟を決めました。また、通常業務は事務局にお任せできるのですが、この投稿については自分で書く以外ないので、私自身の勉強もかねて“NEW GLASS”のバックナンバーを読んでみることにしました。

過去2年分に目を通しますと、日ごろの不勉強を痛感せずにはいられないこととなりました。実に素晴らしい内容の論文や解説・情報が寄せられています。

不勉強ゆえ私の理解度を超えるものも少なくないのですが、これらのテーマは

- A) 長年にわたって続けられているもの
- B) 最近注目を浴びているもの

に大きく二分出来るように感じました。

当然後者の方が多いのですが、ニューガラスといってもカバーする範囲は拡大し続けているのだなと感心しました。

学術論文そのものもあれば、学術論文とは少し違ったまとめかたでニューガラスフォーラムの存在感を出しているものもあることを再認識しました。研究に携わっておられる皆様に敬意を表したいと思います。

大学や研究機関・企業の研究所で多くの方々が研究開発に従事されているわけですが、研究テーマの中で日の目をみるというか、実際に社会に貢献するような成果を出せるもの

はどれくらいあるのか、又それはどうして差が出るのかと私は常々不思議に思っていました。個人の能力や努力、指導者、研究設備、テーマ自体等何がどのように作用していわゆる新商品や新発見が実現するのかと疑問に思っておりました。

そんななかで偶然にも、先月丸善で OUTLIERS (Malcolm Gladwell 著 BACK BAY BOOKS) が米国でベストセラーになっていると宣伝していました。この時は単にサブタイトルの “The Story of Success” に興味を引かれて購入したわけですが、読み進むうちに先の疑問のある種の答えを見出しました。必ずしも研究開発の話ではないのですが、種々のケースを取り上げ、成功事例、失敗事例を研究して成功に至る条件を分析しています。大変ユニークな切り口で、しかも事例に基づいているので説得力があります。要点をまとめますと、成功の条件はまず Hard Work であること。端的に言えば、若い頃の長時間の集中的な勉強、訓練 (10,000 Hr Rule) が基本にあり、その時の経済環境や歴史的背景、時代背景がマッチした時に成功があると説いているところに私は感銘を受けたわけです。

さらに言えば、Hard Work が出来るのも家族環境、民族的背景や習慣が大きく関与しており、個人のやる気以上の要素があると指摘しています。

文章のどこかにあった “Success is a function of persistence and doggedness and the willingness to work hard” との一節が印象に残っています。

翻って、一般企業で研究に携わっている人は専門教育を受け知識や気力が申し分ないとすれば、そのテーマにどれくらい集中し専念できる環境を作るかが成功の鍵かなと思った次第ですが、更にこの本で指摘されていますが、条件が整って Hard Work してもすべて成功するわけではないのです。例えば、ビル・ゲイツが成功したのは、彼の優れた能力と若いころからの大変なる努力、育った経済環境ばかりではなく、ソフト開発の黎明期にあったことも寄与していると述べており、色々な分野での歴史的な環境に左右された成功例を挙げています。

これを企業の研究に置き換えるならば、成功するためにはテーマが適切でなければならず、更に世間に受け入れられ、企業の収益に結びつかねばならないと常日頃私は思っていますので、企業の経営がテーマ選定に大きな責任があると同時に成功率を上げる鍵でもあるのではないかと思いました。

こういったことを考えながら “NEW GLASS” を再度読んでみますと、成功しているテーマも多く、日本のセラミック研究のレベルが高いことを再認識しました。

数多くの研究者の昼夜を問わない研究の成果であろうと思いますし、また、素晴らしい指導者のご指導の賜物であろうと思いました。

世界的に経済が停滞している中で、ニューガラスフォーラムが、またガラス産業連合会が、業界の発展に貢献されんことを祈念いたします。